

2市1町ごみ処理広域化計画から離脱しました

離脱の理由について

計画では、横須賀市に大型の焼却炉を整備するとありました。これを連続運転するには、一定量のごみを投入し続けなければならない、政府の掲げる「2015年度には燃やすごみの20%減量を義務化する」という政策にも、また、地球温暖化防止のため、ごみを出さない、燃やさない、という世界の流れにも逆行します。

また、同じく横須賀市につくるとされていた生ごみ資源化施設については、全体的な一般廃棄物処理システムの中で本格稼働している事例が、今のところ見られません。(先に、逗子市が鎌倉市に共同で建設を検討していた生ごみ資源化施設を断念した理由のひとつでもありました)。

この計画は20年という長期にわたるものであり、その間に技術革新も進むと思いますが、この計画では、新方式への転換の可能性を閉ざすことになると思います。

次に、葉山が分担することになる不燃ごみ等選別施設(50t/5h)ですが、葉山町のどこにつくるか明確にされていませんでした。前町政では、単独処理とのコスト比較も、施設建設に必要な用地選定も着手されていませんでした。新たな用地を確保する見通しを立てていなかったということは、現在のクリーンセンターにつくることを想定していたと考えられますが、その場合、多い日で10tトラック約50台が保育園と2つの学校および住宅地の前を往復することになります。これは近隣住民やPTAの理解を得ることは難しいと思います。

また、この計画については、建設費と維持管理費の負担割合すら未定でした。コスト計算に大きく影響する点が不明瞭なまま進めるわけにはいきません。

結論としては、単独処理を進めていくという選挙公約を覆すだけの(2市1町の計画の方が良い)根拠が見つかりませんでした。ごみ処理は、自己責任として発生元で行うのが原則であり、減量化・資源化・堆肥化の方法も実証されており、「広域化ありき」ではなく、まず町として徹底した減量化・脱焼却の方策を打ち出すことが必要と考えております。町民の皆様への全面的な協力無くしては実現しない大事業です。どうかご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

葉山町長

森 英二